岳精流日本吟院

ちよだ

第５６号

平成２９年５月

千代田岳精会弘報

平成廿九年指標

氣概

「審査」で自信をつけた！次なるステップへ！

会長　鈴木　精成

年間「三大行事」のひとつとして、会を挙げて取り組む「昇伝審査会」が、四月十六日（日）にいつもの「東郷記念館」で開催され無事終了いたしました。今年も一九二名の会員が参加され、厳粛のうちにも活気溢れる審査会になりました。審査をご担当いただいた家吉精雄幹事長、渡精華指導本部長、越智精麗婦人部長の三先生に心からお礼申し上げます。

審査会時に、各先生から頂いた指導のお言葉はそれぞれ明日からの吟詠精進に生かせるものであり、確りと身につけたいものです。

さて、「審査会」の後は六月十一日（日）の全国吟道大会です。今年の大会は**「慶祝　祖宗範　横山岳精　生誕一〇〇年・創流四〇周年　岳精流日本吟院全国吟道大会」**と銘打たれた記念大会です。「祖宗範」（吟詠の祖である故家元先生の敬仰称号）横山岳精先生のご遺徳を偲び、流統並びに会の一層の発展を目指す大会として極めて意義深い大会です。千代田岳精会からも二一八名の参加者があり、盛り上がりが大いに期待されます。男女それぞれの一般合吟で全員登壇になります。加えて「構成吟」で、吟詠、剣詩舞への会員出演もあり楽しみです。

今年の千代田岳精会の年間取組みスローガンは**「新しい吟友とともに、吟声高らか！明日へ！」**です。このスローガンのもと、今年も継続的に新しい吟友の入会が続いていることは本当に心強い限りです。特にいろいろな事情から、やや出遅れ気味だった教場での新人入会の知らせが寄せられており、当該教場へ心からのエールを送ります。

いつも申し述べますが、やはり教場は常にフレッシュさが必要であり、その鍵は新しい吟友仲間の存在です。教場メンバーを学校の学年制に見立てて、一年生（入会初年）から中学生までにランク分けしている教場があり、大変興味を惹かれます。その教場では、学年が途切れていない（毎年新入会が続いている）のは見事であり、活気を感じます。「〇〇さんもいよいよ中学生ですか」などの声かけは楽しいものです。

「無料講習会」の開催で新しい教場づくりの緒をつけようとしているところ、入会呼びかけのチラシづくり、地域広報記載への取組み、そして話題のキッカケのための携帯資料への工夫等、吟友拡大の継続活動が続いています。明るい成果がもたらされることを期待いたします。

話題が前後しますが、今年の「区連吟詠コンクール」では品川、港区連でのわが千代田の活躍が見事でした。品川の平井武泉（神田）、港の片山壽風（東陽町支部）両氏の総合優勝をはじめ、七十一名の入賞、都大会五十三名進出です。「ちよだ」今号が出る頃には、皆さんの都大会での活躍の結果が寄せられている事でしょう。

「龍吟」第二〇六号で予告がありました通り、流統本部企画の「鹿児島吟行会」が開催されます。これは、地域拠点づくりプロジェクトの一環として、鹿児島で宗家の「公開講座」を開催し”鹿児島支部“立ち上げへのきっかけを作ろうと言うものです。当会鹿児島出身者はもとより、多くの会員参加でこの企画を成功させようではありませんか。祥細は追って通知されます。今から準備を！

新聞のコラムに「ホラは他人を喜ばすために吹くもの、ウソは自分のためにつくもの」とありました。**「詩吟はいいよ」**の一言はホラ以上に真実をもって人に訴えられます。

今日もこの「一言」を！

千代田岳精会新年体制

総本部の新年人事が後記の様に発表されました。千代田岳精会は本年、新宿支部の三教場を再編し新宿第四教場を開設。また、かねて進めていたハザマ支部・新陵教場の「みなとみらい分室」が五月一日付けで新設となりました。教場数は二十八教場となります。

新任の本部役員、部門リーダー、正副教場長の皆様ご苦労さまです。今後のご活躍を期待します。

◎総本部役員人事　平成二十九年一月一日付

婦人部副部長　太田　龍翠
（退任）婦人部副部長　菅原　龍琴
広報部部員　大木　博泉
幼少年・寿栄部部員　中島　義泉

◎千代田岳精会新任役員・教場長

平成二十九年一月一日付

研修部門長　萩原　晴風
許証部門長　宮野　幸山
丸の内支部教場長　蒐場　一山
同　副教場長　田尻　映山
同　同　中島　義泉
神楽坂教場副教場長　浪久　大泉
神田教場長　平井　武泉

平成二十九年三月一日付

鎌ヶ谷教場長　植村　太風
同　副教場長　町井　澄山
用賀教場長　松本　篤泉
我孫子教場長　石田　勝山
同　副教場長　岩瀬　碧山
新宿支部教場長　出水田鶴山
新宿第二教場長　坂下　光山
新宿第四教場長（新設）　後藤　佑山

平成二十九年五月一日付

鎌倉教場副教場長　長谷場純泉
新陵教場みなとみらい分室長（新設）　田川　行雄
同　副分室長　滋野　輝彦

新陵教場「みなとみらい分室」開設

教場挙げて取り組んできた「みなとみらい分室」が五月一日付けで開設となりました。

千代田としても平成二十六年六月の生田教場から三年振りの新設教場で新陵教場から移籍四名を含め十三名でのスタートとなります。

教場名　新陵教場「みなとみらい分室」
場　所　横浜市西区みなとみらい四丁目九―一
M・Mタワーズフォレシス内
フォレシスサロン
開催日　毎月土曜日二回　一四時～十六時
教場長　田川　行雄
副教場長　滋野　輝彦

教場長を拝命して
丸の内支部教場長　蒐場　一山

今年一月から山口前教場長の後任として、丸の内支部教場長を拝命いたしました。

当教場は平成八年八月に岩崎精慶初代教場長が創設され、平成二十年一月に二代目山口隆風教場長に引き継がれ、現在、在籍会員三十六名を擁しており、傘下の草加・日暮里・鎌倉・桜ケ丘を合わせると七十四名となります。

伝統ある丸の内支部教場の名を汚すことなく「行くのが楽しみだ、逢うのが楽しみだ、吟ずるのが楽しみだ」。そのような教場を目指し、会員の吟力向上と教場の発展のため、微力ではございますが、頑張りたいと思っております。

今後も引き続き田尻、中島副教場長共々諸先生方のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

教場長を引継いで
鎌ヶ谷教場長　植村　太風

荻龍裕教場長のご逝去に伴い、後任を継ぐことになりました。荻先生は研修部門のコンダクター演奏の指導にも携わり、千代田の発展に大いに貢献されました。

平成十七年、東陽町教場鎌ヶ谷分室を鎌ヶ谷市の道野辺中央コミュニティセンターに開設し「詩吟の会かまがや」の名称で運営しています。

平成二十年、教場に昇格し二十六年に「開設十周年記念大会」を成功裏に終えることが出来まし

た。開設以来、毎年開催されるコミセンフェスに積極参加、老人ホーム慰問訪問などを続けてきました。また、無料講習会の開催にあたり、チラシなどを駅で配布していますが、入会までは中々難しく、入会者も体調不良等で一～二年で退会する状態です。

荻先生と共に歩んだ十二年でしたが、二名の吟友が亡くなり、現在五名の会員です。少人数ですので二回以上は吟詠が出来るので上達も早く、充実した研修が出来るのではないかと思っています。勿論、指導者の力量にかかっていますが、まずは個々の吟力向上と指導育成力の醸成、及び地元密着による会員確保に力を注ぎ、陣容拡充と強化に頑張っていく所存です。

今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

新宿第二教場長を拝命して

新宿第二教場長　坂下　光山

この度、新宿支部、新宿第二教場長を命じられました。まだ入会七年未満の若輩ですが、ひとたび命じられた限りは全力で取り組んで参りたいと思っております。

幸い、教場に準師範クラスの会員もおり小生の知識、能力の及ばないところを助けて頂きながら、特に詩吟を始めて間もない会員が吟に対する興味を失わないよう、楽しく指導できればと考えております。

初めての経験ですので、どうしても肩に力が入ってしまいますが、今までご指導頂いた諸先生方を見習って参りたいと思います。皆様方のご支援をお願い致しましてご挨拶といたします。

新任教場長の想い

新宿第四教場長　後藤　佑山

新宿支部教場の発足以降、一教室の人数が増加し個人指導が減少しているとの危機感から、第四教場の新設が決定され、私が教場長に任命されました。

新教場は長年共に吟を学んできた「泉」「山」の雅号を持つ仲間が男女四名、新人を含む、吟を始めて二年以内の仲間四名に私を入れて九名の構成です。そしてブロックの他教場から二名の準師範が常に応援してくれます。

入会して十年、私は生徒として吟を楽しんできたので、我儘かもしれないがこれを続けたい気持ちでした。しかし私の師匠で友人の酒井教場長が亡くなり、古くからの仲間や新しい多くの仲間の中で、この我儘は許されなくなりました。長く学び楽しんだ経験を皆に伝達して役に立つ立場が与えられ、それが故酒井龍帆の遺志にも叶うことと思い教場長を承諾しました。

しかし、新教場のスタートでの私の役割は、吟を教える先生ではなく、仲間として共に学び、範吟、独吟、合吟、連吟を進める調整役であると心に決めました。その考えで数回新教場に挑み、新しい道が少しずつ見えてきたかなと感じています。それは、過去十年と同様、吟を楽しみ自分の吟力を向上するという基本に変わりはなく、教場長として未熟ではあるが仲間と共に吟力を磨き合い向上に努めることだと思います。

一方、教場長会や千代田岳精会、本部との連絡等の組織対応によって仲間が研修会やコンクール等へ積極的に参加する機会を提供し、後継者の育成に努めたいと思っています。

自分は幸い、今年の独吟コンクールに初入賞出来た事を励みに更に精進したい。

新しく教場長に就任して

我孫子教場長　石田　勝山

この度、故二宮祥風教場長の後任として我孫子教場長を拝命いたしました。教場長の立場では教場の所属する会員の皆さんに詩吟なるものを、岳精流日本吟院の流統、宗家信条である**「真善美」**をよく理解し伝えることが大切であると聞きます。

浅学菲才である私は、ハザマ支部教場在席十年であり、修業中の身であります。以前に耳にした噺家の話を思い出しました。「芸人に上手下手はあるけれど、行く先々の水に合わねば」と聞いたことがあります。詩吟も修業の場所が変わりますと、また地域の状況も違い新しいスタートとなります。

はたして我孫子の水に合った詩吟を吟ずることが出来るか心配であります。宗家の「三月のことば」を借りるならば、感謝の念を深くする人や、尊敬尊重する人は、身近に必ずおられる。

言われる通り、私にも千代田岳精会の中で諸先生や吟友との出会いがあり、今があると思います。

これからもこのご縁を大切にしながら、千代田岳精会の教場としての取組みも含めて、自分自身の努力なくして、楽しい教場は維持できないと思います。また少ない会員の教場を今後どう運営していくか、諸先生、諸先輩にご指導を仰ぎながら、微力ではありますが努めて参りたく思います。

宜しくお願い申し上げます。

吟歴浅い教場長

神田教場長　平井　武泉

今年の一月から神田教場長に就任いたしました。正に瓢箪から駒と感じております。

未だ吟歴も四年二か月ほどの未熟者ですし、習うことに徹したい時期でもあり、本音は教場長などとてもとても勘弁してという気持でしたが仕方なく引き受けたのは、まず前教場長の池田康風先生が十年間も教場長を務められ、そのお疲れもあり、ここに来て体調を崩されたこと、次に本来教場長に相応しい吟歴のある師範の資格を有した実力のある先輩の方々が、種々の理由で引き受けることが出来なかった為です。更に私が引き受けた決め手は、最も重要である吟の指導は、体調不良ながら、従来通り池田先生がやって下さるということでした。

私は伝統芸能の詩吟の世界では、吟歴を重ねて師範の資格を有する事が総合的実力であり、そこで初めて指導者の立場に立てるということを十分認識しております。故に私は本来的な総合的な教場長には成り得ません。

そこで、私は教場の運営、事務処理を担当し、池田先生には雑用を排し、吟の指導により傾注して戴きたいという願いで、ある種分業的な意味での教場長になった次第です。

特に新教場長の心構え抱負はありませんが、皆仲良く楽しく勉強出来る教場でありたいと思います。あくまで趣味の世界です。仕事ではありません。お金を払う側であり、貰う立場ではありません。よって全ての点で無理強いは必要ありません。ただ出来るだけボランティア精神を発揮していただく様、皆様にお願いしたいと思います。何となくうまく纏まって続いて行く教場でありたいと思います。

新任のご挨拶

用賀教場長　松本　篤泉

神田用賀教場長を四月より拝命致しました。三月までおられた竹下尽泉教場長が郷里の大分県宇佐市に帰られる事になり、突然の引き継ぎとなりました。

私は、平成二十四年八月に神田教場に入会した若輩でございます。神田教場の他に、千代田岳精会の千吟会、詩歌研修会等にも出席させて頂き、少しずつ他教場の皆様にも、ご挨拶が出来るようになって参りました。漢詩や吟詠の奥深さを一日一日感じ、少しずつ、楽しみ・面白みを感じるようになってきました。

千代田岳精会神田用賀教場は、池田康風先生のご指導を受けて、教場の皆様と共により楽しく、面白く、勉強できる様に努力していきたいと思います。

千代田の皆様方の、幅広いご指導ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

春の昇伝審査

新しい吟友の声、神宮の杜に

思わぬ春先の冷え込みに満開が遅れた染井吉野が散り、八重桜と木々の若緑が水面に映える卯月の暖かな日差しを受けて、東郷神社水行会で四月十六日（日）今年の春の昇伝審査が、総本部から渡指導本部長・家吉幹事長・越智婦人部長の三先生を審査員にお迎えし、一九二名の会員が参加して開催されました。

先生方から受審者一人ひとりに熱のこもった指導と懇切な講評があり、終了後「設営、準備、進行申し分なくお蔭で気持ちよく審査が出来ました」「高段者のレベルが高かったと感じます」「皆さん丁寧に吟じていました」と総評を戴きました。長時間有難うございました。

中伝合格者　**十六名**

丸の内支部	小山　洋山
同	上村　逸山
桜ケ丘	武藤　弘山
同	藤村　惠山
東陽町支部	宮野　幸山
神楽坂	江崎　亮山
調布	高橋　喜山
中野	細川　修山
同	三好　弘山
同	小蔦　正山
同	櫻田　謙山
同	原口　美山
ハザマ支部	草間　朱山
生田	二反田奉山
新宿第二	坂下　光山
新宿第三	宇田川静山

初伝合格者　**二十七名**

丸の内支部	齊藤　紫泉
同	坪川　竜泉
草加	名倉　隆泉
鎌倉	安田　正泉
精流	加藤　雅泉
東陽町支部	小林　晴泉
同	脇阪　緑泉
同	土居　佳泉
神楽坂	金城　明泉
同	浪久　大泉
同	浪久　雅泉
調布	中根　輝泉
同	野附　晴泉
中野	矢崎　春泉
志茂	長部　惠泉
新陵	小梶　清泉
同	柴田　豊泉
同	田川　行泉
同	西坂　佳泉
同	堀内　和泉
同	中川　寿泉
同	和田　之泉
同	竹森　伊泉
生田	駒田　秀泉
同	関根　紀泉
新宿支部	石井　浩泉
新宿第三	塚田　正泉

雅号と私

丸の内支部　齊藤　紫泉

会場の窓一杯に八重桜が咲き乱れる穏やかな日となり、昇伝審査が始まりました。胸中の不安のなか、自分なりの吟が出来たとホッと致しました。

振り返りますと入会して三年、これまで休まず練習を続けられたのも、鈴木会長はじめ教場長、諸先生、諸先輩のご叱声、ご指導の賜と感謝いたしております。

雅号を頂くにあたり、字を考えてみました。六月が自分の誕生月、花は紫陽花、梅雨の中にも澄んだ紫色は美しく、凛とした姿を映しています。その様な姿を思い”紫泉“を選びました。吟道を通じ、これからの人生を清々しく、爽やかに、楽しく生きて行けたらと思っております。有難うございました。

雅号「泉」を頂いて

丸の内支部　坪川　竜泉

昇伝審査の日が来ました。いつもより早く起床し、地下鉄千代田線「明治神宮前」下車、竹下通の雑踏を抜け東郷神社に向かいました。会場裏の駐車スペースで課題吟二題を低い声で発声練習、時間になり審査会場へ。

新しい人から審査が始まり、いよいよ私の番です。**「家兄に寄せて志を言う」**廣瀬武夫を選び、何とか声が途切れずに吟じ終えてほっとしました。審査の渡精華先生から「何本で吟じましたか？」と質問され「水一本です」と答えたところ、「一本か二本で吟じた様に聞こえました。奇麗な声です」と望外のお言葉です。声の伸びが足りなかった起

句の山を先生も一緒になぞって下さり、再度全部を吟じさせて頂きました。無我夢中、忘我の一時でした。直前の稽古では絶不調、一本では山と転句の冒頭が掠れてしまう有様で、昼食後ある大先輩に特訓をして頂き、現状に合わせ水一本の受審を勧められました。昨年は一本で吟じましたので忸怩たる思いもありました。今後は渡先生のお言葉を胸に吟力向上に邁進してまいりたいと思っております。

三年前の初受審、吟題は自分が坂本竜馬ファンなので**「坂本竜馬を思う」**河野天籟を選びました。単純な動機で怖いもの知らず、難しい吟を選んだものです。山口前教場長に早朝特訓を数回して頂きました。自宅に帰っての一人稽古、当日吟じ終えた時、自然に滂沱の涙がこぼれました。審査の杉江精寛先生が「短い期間で良くここまで…」と呟かれたのを思い出します。そしてこの吟が私の原点になり、泉の雅号を「竜泉」といたしました。さすがに「龍」は恐れ多くて使えません。

廣瀬神社（大分県竹田市）には参拝出来ませんが、靖国神社に参拝に行きたいと思っております。

ご指導頂いた岩崎精慶、山口隆風先生、蒐場一山教場長、諸先輩方に幾重にも感謝申し上げます。

雅号「泉」を許されて

東陽町支部　脇阪　緑泉

初伝審査会場の東郷神社は、四月の陽光に輝く新緑に包まれていました。家吉先生の前で、課題吟の**「家兄に寄せて志を言う」**を磯田、菊池、前田、花山、澁谷の各先生方の温かい視線を感じながら懸命に吟じ、そして吟じ終えたあと家吉先生から「魂の入った吟」というお言葉を拝聴したとき、私は詩吟という素晴らしい世界の何かが少しだけ見えたように感じました。

厳粛な教場において、いつも鈴木会長や磯田、岩崎、宮野先生から、素読・アクセント・腹からの発声・息継ぎと間、の重要性をご指摘戴くのは、漢詩には作者の自然や人生への深い思いが込められた言葉が凝縮されており、これを吟ずる者が魂を込めて吟ずることにより、初めて時空を超えて作者と吟者との心情が繋がっていくものであること、そして活字を黙読することと、詩文を朗詠することの決定的な違いは、詩文を音曲として表現することにあるから、と。

「初伝」とは、まさに入口に立つことを許されるという意味でしょう。詩吟の世界の高い山の麓にある「泉」号は、まさに序の口に入るという意味。そこで雅号は、岳精流詩吟教本「天の巻」の表装の緑色、新緑、常緑、緑地、緑風、緑雨、緑陰等などに因んで「緑泉」とさせて戴きました。

これからは生まれて初めて自らの雅号を許されて、気持も新たに雅号に相応しい吟詠を心がけ、諸先生方のご指導の下、数多くの素晴らしい吟友の皆様とともに一層精進し、自らの心身を鍛練して行きたいと存じます。

昇伝審査

新宿第三　塚田　正泉

平成二十五年四月に入会して程なく、故酒井龍帆先生から「昇伝審査の雰囲気を味わい、会員の吟を聞くのは勉強になる」と声をかけられ、何も分らないまま水交会に赴くことになった。この日東郷記念館に集う千代田岳精会の諸兄は雄々しく、諸姉は凛々しい。審査直前とあって多少の緊張は否めないが、指導を授かる会員の表情は明るく自信に満ちている。これぞ師と弟子の厚誼の絆だ。

あれから四年を経て、今私は水交会の前に立っている。昇伝審査を受け、雅号「泉」を取得するために。四年前が「今」になる。

二題の指定吟から、いずれかを指定される。緊張が不安に変わる。しかし越智先生から「どちらを吟じますか」と思いがけない言葉をかけられた。好きな吟を…先生の配慮と受け止めて安堵したものの、暫し逡巡。数秒間のためらいの後**「出塞行」**と決断した。一礼し、改めて**「出塞行**（王昌齢）**」**を吟詠する。練習量は**「家兄に寄せて志を言う」**の方が多く、吟じ易い。こちらは難しいが情緒的な味わいがあり、思い切って選択した。

不本意な結果に終わったが「吟は覚えていたと思いますよ」という越智先生の一言で気持ちを切り替えることが出来た。

今回、越智先生の情熱と力強い吟を拝聴しかつ懇切丁寧なご指導を戴いたことで、挑戦する気持ちが湧いてきた。思えば、自治寮で過ごした若き頃、先輩と伍して輪読（時には輪講）し、夜更けまで寮歌・校歌を歌い通したことを思い出す。腹筋も強く、声帯も弾力があった時代のこと、初心に帰って鍛えれば少しは戻ってくると信じて、素

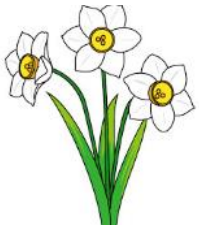
読百遍・腹式発声の練習に励みます。
日頃から教場管理・運営・研修会で呻吟されておられる教場の先生方に敬意を表し、千代田岳精会の発展を願ってやみません。

雅号「泉」を頂き

清流　加藤　雅泉

平成二十五年九月末に清流教場の菅原龍琴先生のお誘いを受け、岳精流詩吟に触れて即日入会いたしました。当時は「丸の内女子教場」と呼ばれ、男性先輩は三人。詩吟とは何ぞや、の心情でしたが、声が大きくて元気でよろしいと煽られて入会し、早や四年目になりました。教場長、先輩方に基本から教えて頂き、雅号を戴くまでになり感謝しております。
最近は詩吟の奥深さ・素晴らしさに目覚め、月三回の教場は休むことなく、そして「月曜会」「階層別研修」をはじめ自主研修の「詩歌」「演奏」「千吟会」に出席し、後の懇親会での先生方、先輩方の蘊蓄ある会話も楽しくて積極的に参加しております。
さて晴天の下、枝垂れ桜が満開の風情の東郷記念館での昇伝審査は今年で四回目です。流石に初めての時に比べ些か落ち着いているつもりでしたが…。審査員家吉幹事長、磯田顧問、隣席に鈴木会長、渋谷顧問の先生方の前での吟詠には緊張の極致でしたが、千代田の諸先生には教場、研修会で教えを受けていましたので心強く落着いて吟じられました。

課題吟は「出塞行」を吟じ、家吉先生から「今年の武道館には練習を積み、頑張るよう」と励ましの言葉を頂きました。
今後、岳精流吟詠の奥深さ、素晴らしさを友人・知己に広めたいと思っていますが、それが為には私自身が精進し、吟力を高めなければと心しております。



日本吟剣詩舞振興会
吟詠コンクール大会

年初の行事として、多くの会員が挑戦し、都大会出場へのステップアップの場として参加している区連「吟詠コンクール」に、今年も二月十九日の品川区コンクールに三十八名、三月二十六日の港区コンクールに八十六名、合計一二四名が出吟しました。教場で重ねた練習の成果が発揮され、これまで最多の七〇名が入賞しました。上位入賞の五十四名が五月開催の都大会に出場します。

品川区　　**二十六人**

◇青年の部　二位　片岡　正也　（新宿四）
◇一般一部　優勝　石井　浩泉　（新　宿）
　　二位　青山　昇平　（新宿二）
◇一般二部　四位　大和田久美子（新宿二）
　　二位　中野　陽山　（新　宿）
　　十二位　小川　尚子　（新　宿）
　　十五位　久保　正義　（神　田）
　　十七位　中屋　保之　（神　田）
◇一般三部　優勝　平井　武泉　（神　田）
　　四位　橋本　淳風　（新　宿）
　　六位　池田　康風　（神　田）
　　八位　森山　仙山　（清　流）
　　十一位　小林　公風　（神　田）
　　十二位　竹下　尽泉　（神　田）
　　十三位　手塚　勝山　（新宿二）
　　十六位　乙訓　稜泉　（新宿四）
　　廿一位　後藤　佑山　（新宿四）
　　廿二位　櫻河　義弘　（新　宿）
　　廿五位　小倉　孝之　（新　宿）
　　優秀賞　粕川　紘風　（神　田）
　　同　中井　武典　（清　流）
　　同　加藤　有風　（新　宿）
　　同　細田　和泉　（新宿三）
　　同　宇田川静泉　（新宿三）
　　同　坂下　光山　（新宿二）
　　同　入住　章山　（新宿二）
　　総合優勝　平井　武泉　（神　田）

港区　　**四十四人**

◇小年の部　優勝　小林　晴泉　（東陽町）
◇一般一部　二位　高汐　一枝　（桜ケ丘）
◇一般二部　優勝　片山　寿風　（東陽町）
　　五位　下條　信泉　（丸の内）

七位　脇阪　緑泉（東陽町）
八位　土居　佳泉（東陽町）
九位　小浦場伯泉（ハザマ）
十位　小梶　清泉（新　陵）
十一位　竹森　伊泉（新　陵）
十二位　湯浅　和泉（中　野）
十三位　大木　博泉（新　陵）
十四位　和田　之泉（新　陵）
十五位　能島　伸夫（新　陵）
十六位　上村　香泉（丸の内）
十七位　石母田敏江（丸の内）
十八位　上田寿美江（ハザマ）
努力賞　関根　紀泉（生　田）
同　青木　美憲（新　陵）
同　岡島加末子（東洋町）
三位　田尻　映山（丸の内）
四位　中内　博山（草　加）
六位　宮野　幸山（東陽町）
八位　松尾　宝山（ハザマ）
十位　萩原　晴風（ハザマ）
十二位　小山　洋泉（丸の内）
十三位　犬飼　勇山（ハザマ）
十四位　浪久　大泉（神楽坂）
十五位　浪久　雅泉（神楽坂）
十六位　八田　仁風（丸の内）
十八位　矢崎　春泉（中　野）
十九位　望月　輝山（清　水）
廿位　長谷場純泉（丸の内）
廿一位　木戸　彪（新　陵）
廿三位　蒐場　一山（丸の内）

◇一般三部

廿四位　二反田奉山（生　田）
廿五位　塩月　崇泉（調　布）
廿六位　鎌田　秋泉（丸の内）
努力賞　廣田　了風（桜ケ丘）
同　小蔦　正泉（中　野）
同　櫻田　謙泉（中　野）
同　中島　義泉（丸の内）
同　宮永　明泉（ハザマ）
同　堀田　宣泉（清　水）
同　金井　俊夫（中　野）
総合優勝　片山　寿風（東陽町）

吟詠コンクール初入賞

新宿　小川　尚子

二度目のチャレンジでした。初回は岳精流の徽章や指輪を付けたままステージに上がって失格となり、実力云々を問われる前の、話にならぬ状況。今回やっと一人前のチャレンジャーになれました。立派なホールのステージに上がり大人数の前で思いっきり吟じた時のこの快感は何よりの経験でした。

詩吟を始めて二年半、最初は表声が出ず悩む毎日でしたが、実妹（音楽家）のボイストレーニングのクラスに通い始め一年ほど経った頃から、何となく声の出し方のコツが掴めて来たような気がします。昇伝審査の折に宗家から「発声が良い」とのお褒めの言葉を頂戴し、大変嬉しく思いました。

「誰もが生まれつき名器を持っていて、正しい発声をしていれば、何歳になっても良い声が出る」という妹の言葉を信じて、引き続き精進していきたいと思います。

詩吟、良き先生方、楽しい仲間と出会えたことに心から感謝します。

伴奏も自分の声も良く聞こえた

神田　久保　正義

詩吟を習い始めて二年、吟詠コンクールへの挑戦は二回目である。吟題は**「海を望む」**で一般二部でのエントリーだ。

昨年は諸先輩からの、何事も経験だ！の激励だけで出場したが、結句の大山の箇所でガス欠だった。普段はとても凄い吟を詠じる先輩の絶句も目の当たりにした。コンクール後の教場は、何か今までと違う世界が見え始めた気がした。

そして今年のコンクール。「肛門をしめ、息を確り吸う！」伴奏のＣＤの音が流れる…。ホウサイ～　ハレヒラク～…　伴奏も自分の声も良く聞こえた。

まだまだ基本が出来ていない自分であるが、都大会出場の機会を得た事は、吟道の道しるべを示してくれたような気がする。

コンクール初入賞を頂いて

清流　中井　武典

昨年始めたばかりで、コンクールに出場さえおこがましい自分が偶々優秀賞を頂き恐縮至極です。詩吟を始めた動機として、千数百年前の先哲の「詩心」に触れられるという好奇心がありますが、吟題の**「事に感ず」**于濆作はまさしく現代人に通ずる心情を感じ、選題させて頂きました。

しかし、いざ舞台に立つと唯詩文を間違えないように大きな声を出す事のみに専心し吟じ終えたのが実情で「詩心」を吟ずるには程遠い、を痛感しました。未だ浅学駆け出しの身ですが、今回頂いた賞を励みに、諸先生・諸先輩のご指導を頂いてこの奥深い「吟道」を学んで参りたいと思います。

吟詠コンクール初入賞の感想

新宿三　細田　和泉

この度、吟剣詩舞道連盟吟詠コンクールに初めて挑戦して優秀賞を頂きました。今までコンクールに関心もなく「好きな人が参加すればいい」と思って傍観していました。しかし熱心な後輩の皆さんがどんどん挑戦されるので正直に申しますと「試してみよう」という気持ちで参加しました。

先輩の色々な失敗談も伺っておりましたので失格という事にならないように機会ある毎に詩文を口ずさみ、声を出さず心の中で練習しました。初入賞させて頂きますと不思議に意欲が湧くものです。今後どの位向上出来るのか分かりませんが、俄然意欲が湧いてきました。咽喉の健康維持に気を配り先輩の方々のご指導を大切にして、なお上を目指して努力したいと思うようになりました。

初挑戦

神田　中屋　保之

あれ？音程が取れないッ！　マイクの調整を落ち着いて出来たと思い、安心した途端一気に緊張感が全身を襲ってきました。ただでさえ不安定な起句。ヤバイ！、でも今まで習ってきたことを最後まで吟じ上げようと気を取り直して詠じました。

幸いにして誤読、絶句することなく気持ちよく退場出来ました。思えば神田教場に通い始めて約一年、吟歴数十倍の先輩方と同じ舞台に立たせて頂き、拙い吟を懇切丁寧にご指導下さった教場長や各先輩の皆様に感謝しつつ、次回はさらに成長した吟をご披露出来るよう精進しようと思っております。

望外の入賞

新宿　櫻河　義弘

この度のコンクール初入賞は望外の喜びと同時に良い思い出となりました。これも日頃暖かく接して下さる吟友の方々、並びに諸先生方の親身、丁寧なご指導の賜物と感謝申し上げます。

吟歴が乏しく、当日は暗譜不安や体を動かす悪い癖が出ないか大変緊張しましたが、幸い大きな失敗は出なかった様で助かりました。まずは参加する事が大切と思い挑戦したのも幸いしました。

今後は、今回の入賞を励みとしまして一層の精進・努力を重ねると共に多少なりとも新宿教場に役立つ様に努めたいと思いますので引き続きのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

吟詠コンクールに入賞して

新宿　小倉　孝之

昨年の三月に岳精会に入会し、早くも一年が過ぎて詩吟の何かも分からず毎回の教室に出席する事だけを心がけて来ました。諸先生、先輩方には優しく丁寧にご指導頂き感謝の気持ちで一杯です。

昇伝審査やコンクールも初めての経験で躊躇しましたが、舞台馴れする為の度胸試しのつもりで参加しました。

何がどうなったのか分かりませんが、入賞したのはマイクの使い方と姿勢が良かったのではないかと思います。

東京都大会に折角出場するのですからそれなりに練習に取り組み、ダメもとでいいですから一丁やってみますか！

今年の目標は　色々なことにチャレンジすること

桜ケ丘　高汐　一枝

「今年の目標は、色々なことにチャレンジすること」と決め、今回の吟剣詩舞道連盟コンクールに参加いたしました。

コンクールに参加する前は、わざわざ緊張して舞台に立ち、吟をすることに対して共感出来ない自分がいました。しかしコンクールで吟ずると、「緊張したが今を生きている」「一生懸命に今の時間を使っている」ことを感じました。このことから詩吟に対する自分の気持ちの変化に気付きました。

「私は詩吟が好きだ、もっと出来る事はやって上手に吟じたい」と言う気持ちです。今回のコンクールに向けて、廣田教場長さん、本気で向き合い教えて頂いてありがとうございます。おかげでさまで都大会出場します。

また、足を運び教えて下さった先生方、今後も頑張りますのでご指導お願いいたします。

感謝

新陵　能島　伸夫

この度はコンクールに入賞出来、大変嬉しく思います。教場での懇切丁寧なご指導のお蔭と感謝申し上げます。特に鈴木精成先生には、吟詠の個別指導の時間をとって頂きました。また、先輩諸氏から初参加者としての心得や注意点を細かくお教え頂き、これまでの練習通り、本番に臨めばよいという気持ちになれたことが、最大のポイントではなかったかと考えております。

今回コンクールに参加者皆様の吟を聴き、心に響く吟の素晴らしさを確認致しました。更に精進して次の都大会も頑張ろうと思っているところです。

最後に、このような機会を設けて頂いた千代田岳精会に感謝申し上げます。有難うございました。

初入賞

清水　堀田　宣泉

この度の初入賞は本当に嬉しい出来事でした。普段から指導を頂いています素読が必要であることと、アクセントに合った発声練習に注力しました。

今頃申し上げるのは、恥ずかしいことですが「努力は結果を生む」ことを身をもって感じた次第です。出場するからにはこの一念で、朝夕場所をわきまえず時間を見つけて練習しました。反省する点は「入賞に甘えてはいけない」ことです。まだまだハードルが高く大変ですが、先輩のご指導に加え後輩の後押しに支えられて、成長を目指して参ります。

詩吟の力、詩吟の魅力、詩吟の楽しさ、が徐々に分かり出してきた未熟者です。ご関係者の皆様のご支援・ご教授を宜しくお願い申し上げます。

今年のコンクール出場が良い思い出になりました。

コンクールに挑戦

東陽町支部　岡島加末子

今年の挑戦は入会して間もなく、花山龍櫻先生からお声を掛けて頂いたのがきっかけでした。私自身は挑戦するというより、出ることで一つの吟が自分なりにかたち作られる良い機会を与えて頂いたと考え参加いたしました。

テープに先生の吟を入れて何回も聴いたり、吟じたり致しました。

本番当日は大きな会場で声を出すのは初めてで今までにない緊張感でしたが、先生に指導して頂いた事を思い出し、自信を持って吟ずることができました。

コンクールを振り返って

新陵　青木　美憲

初入賞の感想というご依頼でしたが、私の場合反省の気持ち頻りですので、以下反省文とさせて頂きます。

何が反省かと言えば、詩吟の一番大事な声が出ていなかった事であります。その原因は幾つか考えられますが、まず喉の不安、次に詩文を間違えないかの不安、最後に伴奏を確り聴き取れなかった事にあると思います。その為、始める前に充分息を吸い、しっかり吟じ出すことが出来ませんでした。後は節調に頼り、早く終える気持ちばかりが先に立って実に面目ない吟だったと思います。次回のチャンスがあれば、結果を気にせず自己満足でも良いので思い切り声を出して、気持ちよく終わるつもりでいます。

年男・年女（前号から続き）

年男を迎えて

中野　森坂　雄三

今年の干支は丁酉に当たり、年男を迎えます。平成二十三年十月に入会して、早いもので五年が経過しました。今までご指導を頂いた先生、諸先輩、吟友の皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

仕事を辞めた後の人生において、打ち込める趣味として詩吟をする事になり、充実した人生の一助として紹介して頂いた先輩に感謝しています。詩吟の良さは息をお腹にため、口から吐き出す腹式呼吸が健康増強に大変良いこと、世代を超えて詩吟の仲間が増えること等があります。

これからも、詩吟の吟縁を大切にして元気に声を出して、更に上級を目指し努力を重ねて行きたいと思っています。

年男雑感

東陽町支部　藤本　紘

東陽町支部教場に入会してほぼ一年、古今の名詩に親しむ機会であると共に磯田顧問・宮野教場長をはじめとする諸先生による暖かいご指導を受け、年齢を超えた交友を楽しんだ密度の濃いものでした。

医者の友人によると、老年期の生甲斐はその人の属するソサエティの数と質に比例するという研究論文があるそうです。東陽町支部教場は私にとり、そうしたソサエティの重要な一つになりました。

詩吟の素晴らしさは古典漢詩の世界だけでなく、和歌・今様から俳句・新体詩まで時代と国を超えた芸術文化に浸る事が出来る点にあると思います。また自然を題材とした吟詠を楽しむことは仏教が教えるところの林住期にふさわしい人生の過ごし方だと思います

楽しく

調布　高橋　喜山

姑が亡くなったのが私の五十一歳の時である。実の母より長く一緒に暮らしたので一時はほっとしたものの、その後の虚脱感を抜ける為に当時のラジオで（何方が話されたのか）紙と鉛筆さえあれば寝たきりになっても退屈しない、との言葉につられて始めたのが短歌である。もう三十有余年になる。

さて詩吟との縁はというと、夫が亡くなり声を出すことが少なくなると危惧する私を誘ってくれたのが友である。それが平成二十二年の事であった。何も分からず言われるまま声を出し続けたが、近頃ようやく詩吟の詩句の面白さが解りかけてきたところである。詩歌研修会のお蔭である。

思うにこれも寝たきりになった時、詩を暗記しておけば退屈する事がないのではないかと気が付いた。目標があるとこれまた杜甫だ、李白だ、蘇軾だと覚えるのが楽しく、今度は誰の詩を教えて頂けるのかと次の教室が待ち遠しい。そこに加えて二年前からコンダクターの教室にも出席するようになったのである。心は豊かになったが忙しくもなって日々何かやらねばならない事を持っている。

覚えにくく忘れやすい高齢になってしまったが、寝たきりになった時にと思い、始めた事がどんどん前に開けてくる喜びを今味わっている。

愚作一首を　　登喜　作

屋根に照る　今宵の月の　冴え冴えと

李白の「静夜思」ついロに出る

これからもお付合いを

逗葉　市倉　妙泉

詩吟を始めてやっと五年（まだ五年）経ちました。そして生まれて七十二年になろうとしています。なんと早いのでしょう！六周した訳ですもの！七周出来るのかしら？　健康だけがとりえの私でしたが、最近急にメンテナンスが必要となり、初めて歳を感じています。節目とやらをクリアーして、地元のみならず遠方の皆々様共もっとお会い出来たらと思っております。

戒名の様な雅号を頂き、身を引き締めて精進してまいります。皆々様、末永くお付合いの程宜しくお願い致します

六回目の干支を迎えて

中野　金井　俊夫

江戸時代に日本で最初に詳細な日本地図を完成させた伊能忠敬は五十歳を過ぎて暦学を勉強し、天文学などを習得し完成させました。当時も五十歳までお店にきちんと貢献し、それなりに成果を上げた者達には報奨金を与え、自由に予後の生活が出来る権利があったようです。

彼の最初のきっかけは、当時外国から入ってきた地球は丸いとの事から地球の全周の距離に興味があり、これを求めたいとのことからだったようです。地球の内部角度が「1度」の表面距離が解れば、これを三六〇倍するのですが、精度の問題で江戸から蝦夷地までの距離が必要と判断しました。こんなことで日本地図まで完成させてしまう伊能忠敬に感心もしますが、そのやり切る執念と体力にも感心します。

その成果はオランダ館の医師シーボルトが秘密裏に盗み出し、回り廻ってアメリカ人のペリーに渡り、来航時に持参していたそうです。かなりの物だったことが窺われます。

余談ですが、この測量により彼は地球全周の距離を計算し、その結果は現在の測量結果と比較して、一／一〇〇〇の誤差の精度だそうです。

ただ現在では、江戸時代の五十歳が七十歳になっているように感じられ、私の諸先輩方々も極めて元気で、趣味や芸事、ボランティアと活躍されています。この江戸時代の伝統は脈々と受け継がれていて、皆さんに敬服しています。

私も一昨年十一月に千代田岳精会にお世話になり、今年で二年が過ぎようとしています。平成二十九年は千代田岳精会の様々な教育システムに参加し、後れを取らない様に精進したいと思っています。

六回目の年男になりました

丸の内　笠　泰泉

「六回目の年男！えっ！」つい先頃まで親の背中に揺られて居た思いですが、年の流れの早いこと、鏡の中の自分を見て驚くばかりのこの頃です。

九州の片田舎で産湯をつかい、多くの堀や池に囲まれた大学で学びを修め、生意気にも大志を抱いて上京したのがつい昨日のことと思われます。

世の荒波に鍛えてもらい、多くの先輩の導きを得、多くの仲間の励ましを受け、ようやくたどり着いた今日です。

六十歳を前後として、お前は化け者かと言われる程に病を繰り返し、しぶとく生き抜いていた時に出会ったのが詩吟でした。

たび重なる手術のために体力も衰え、発声もままならぬ時に詩吟への誘いを受けました。

「え―い、逆療法だ、思いっ切り声を出せ」とのやけくそ挑戦でした。「腹から声を出せ！大呼吸だ！ガバッと息を吸え！」それだけを言い聞かせて来ました。

吟歴七年を迎え、腕前は別として日常会話でも詩吟に於いても声の大きさ・安定度は望むものになりました。おかげさまで体調もすこぶる良好、特に大声での朗吟の後は身も心もすっかり解放される思いです。

石の上の七年でした。これからは正しい発声や節調・表現をより自分のものとすると共に、吟の道を通しての自らの体験を一人でも多くの方に伝え、吟友への誘いも心掛けて行こうと考えているこの頃です。

雑感

神楽坂　金城　明泉

終戦の年に生まれ、同級生が少なくのんびりした学年だといわれて育ち、うろうろおろおろしながら、現在まで来てしまいました。子供の頃の沖縄は大変貧しく、また不如意な事も多かったようで、孤島苦（シマチャビ）という言葉をよく聞きました。その陰鬱な気分から離れたくて、先に上京していた妹をあてに上京しました。その頃は何の資格や特技が無くても事務員として働けたので、自分の居場所を見つけることが出来ました。故里を離れると故里が強く思われ、琉球舞踊を習い始めました。偶然始めた踊りが現在に繋がり有難いです。

詩吟は、男性の高歌放吟を映画などでちょっと見た位でこんなに大勢の女性がやっている事に驚きました。

平成三十年度 昇伝審査指定吟題

■初伝
青の洞門 網谷 一才
児に示す 陸 游
■中伝
客舎の壁に題す 雲井 龍雄
親を夢む 細井 平洲
※短歌（自由選題、教本の中から選ぶ A型、B型、C型のどれでもよい）
■奥伝
遠 山 欧 陽脩
秋 江 太田 錦城
※俳句（自由選題、教本の中から選ぶ）
■皆伝
咸陽城の東楼 許 渾
山吹の里 角光 嘯堂

岳精流吟行会

早春の薩摩路へ

来る新春早々に、岳精流として挙げてＮＨＫ大河ドラマ「西郷どん」の舞台、鹿児島吟行会を実施し、行事の中心に当地で初めての宗家公開講座を計画。これを起爆剤としてまだ教場の無い鹿児島に拠点開設の手がかりとしたいと考えています。

◎日　程　平成三十年一月二十八日～三十日（日・月・火）

◎目的地　鹿児島市内及び知覧特攻平和祈念館

◎宿　泊　鹿児島市・指宿市

初日に鹿児島市内で宗家公開講座開催

千代田には、鹿児島出身やご縁のある会員が相当数おいでです。一人でも多くの知人縁故の方々に声をかけ、公開講座で心身ともに爽快な日々を送れる詩吟の素晴らしさを体験して頂き、岳精流の吟友増加に繋ぎたいとの願いも込められた吟行会です。多数の吟行会参加、講座出席の声かけ、参加費の積立てなど、教場での今からの準備工夫をお願いします。

（「龍吟」三月号で予告の日程が、諸事情で変更となり一週間早くなりました）。

全国吟剣詩舞道大会

◇武道館へ男子チーム出場

日本武道館は東京オリンピック会場として改装工事が行われるため、十一月四・五日の大会以降当分の間、使えなくなります。

千代田は昨年、三十周年記念吟道大会開催で参加を見送ったが今年は満を持して男子チームが出場します。本数二本を基準に挙手及び教場推薦で四十七名の報告があり、五月十一日（木）から上位入賞を目指して練習スタートとなりました。

◇本部男子チームへ多数参加

今年の総本部チームは男子が出場しますが、本数水一本とこれまでとは違う出場となりました。これは、音程が低い男子には武道館の出場の機会が全く無く、口惜しい思いを胸に秘めた会員達の強い希望を宗家が汲み取り、前例の無い挑戦が決まったもので各会から五十四名が名簿提出しました。（千代田二十二名）

四月四日の発会式には、長年の武道館への思いを胸に三十四名が参加。吟題は**「春を探る」**戴益と決まり、宗家を中心にした指導陣が異色チームとしての注目に耐える力をつけ、上位入賞への強い意思表示があり十一回の厳しい練習が予定されています。

両チーム揃っての入賞を期待します。

【新会員紹介】

◇丸の内支部教場

柴田　忠弘氏（二月入会）

七十歳を過ぎ、発声が健康に良いと言われ、詩吟を習う事を決めた。会社の先輩の蒐場教場長から誘われていたので入会し詩吟を始めたところ、安定した声が出せず迷っていたが、声は腹から出すように教えられた。毎週の練習は、

楽しく、ゆっくり向上心を持ち、続けていきたい。

◇鎌ヶ谷教場

赤岩　かよ子さん（三月入会）

詩吟を初めて聴いたのはＰＴＡの会の時で、朗々と吟じた方がいらして感銘しました。

最近体調を崩し、何か健康に良いことはないかと思い、腹式呼吸の発声で大声を出す詩吟がストレス発散にも良いのではと思い入会させて頂くことにしました。

◇清水教場

森兼　康博氏（十一月入会）

入会のきっかけは昨年、松岡省一さんに声を掛けて頂いたことです。その後、清水教場に見学に伺ってその気になりました。知識も経験もありませんが、まずは正しい発声と、吟ずる楽しさを味わえればと思っております。今後もご指導の程よろしくお願い申し上げます。

◇神田教場

櫻井　慎一郎氏（一月入会）

小さい時から音楽は苦手でした。スポーツジムで、ある女性から「詩吟を始めませんか」と誘われ、三か月経ってから見学に行き、面白いと思って始めました。一つの吟だけを習い、一年ほど経って入会を勧められました。正しく吟ずると気持ちが良いのが不思議です。

◇用賀教場

坂部　英子さん（十一月入会）

二〇一六年十一月に用賀教場に入会しました。世田谷区報「会員募集」欄の詩吟岳精会が目に止まりました。稽古が月二回の金曜日というのも幸いしました。早速、竹下尽泉教場長さんにメールを入れましてそのお人柄にも触れ、最初の稽古に参加してそのまま入会し今日に至ります。いつか触れてみたい分野でしたが、漢詩のみならず和歌・俳句など奥深く、それぞれの作品の世界観を味わいながら精進したいと思っております。

◇志茂教場

川崎　秀夫氏（三月入会）

二年前、定年退職を機にスポーツを満喫する生活をしておりましたが、小林公風先生の三年越しのラブコールにお応えし、文芸の道も楽しもうと決心し、岳精流の詩吟の道も深めたいと思い、全くの素人ですが一生懸命にその道を学んで行きたいと思っております。

訃報

◆荻　龍裕氏（鎌ヶ谷教場長）

一月二十八日逝去されました。享年八十四歳

平成十七年東陽町教場から鎌ヶ谷分室を初めての地域型教場として分離開設されました。演奏部門の初代リーダーとしてコンダクターの指導に努められる等、千代田の発展に多大な功績を残されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

◆二宮　祥風氏（我孫子教場長）

二月六日逝去されました。享年八十四歳

平成二十三年松戸分室を開設され、その後我孫子市へ教場を移され、教場長及び吟楽部門リーダーとして多大な功績を残されました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

編集後記

昨年の創立三十周年記念吟道大会は、参加会員全員が納得・満足の大会だった。後日、ご来賓の先生から「岳精流一番の記念大会を見せて貰いました」との有難い言葉を頂戴しました。一方、この日まではと高齢、体調不安等のなか続けられた先輩のご勇退もありました。今後のご自愛をお祈りします。

今年は、活動原点である教場活動の充実の一環である個々の吟力の向上を目指し、春の吟詠コンクールの多数会員挑戦が都大会出場五十四名の成果となり、秋の武道館合吟コンクールは男子チーム挑戦に加えて、本部男子が水一本、長い歴史の中で初めての音程という刮目される挑戦チームに二十二名が登録した。初の武道館ご健吟を祈ります。

編集締切り間際に、「みなとみらい分室」開設のビッグニュースが飛び込みました。今後の吟友呼び活動の参考になるものが沢山ありそうです。

（八田　仁風）

ｿｰﾘｵからのﾌﾞﾚｶﾞﾘｱ山群
星野久風（清水）